

2017年3月期第2四半期 決算説明会

日本通運株式会社

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 9
III. 2017年3月期通期の業績予想	P. 10-
IV. 経営計画の進捗状況	P. 16

2016年10月31日

Ⅰ. 経営状況



A. 2017年3月期第2四半期決算の概要

1) 概要（連結）

（単位：億円、％）

	2017/3期 第2四半期 累計実績 ①	2016/3期 第2四半期 累計実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②×100	第2四半期 累計予想 (7月29日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=①÷⑤ ×100
売上高	9,092	9,532	△439	△4.6	9,060	32	100.4
営業利益	244	231	13	5.8	235	9	104.1
経常利益	281	276	5	1.8	278	3	101.3
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	182	152	30	20.3	165	17	110.9

2) 第2四半期累計 連結経営指標 ()は前年同期実績

（億円未満切捨て）

・売上高営業利益率 2.7％（2.4％） ・売上高経常利益率 3.1％（2.9％）

【ご参考】 ()は前年度実績

・ROA 2.4％（2.4％） ・ROE 7.0％（6.8％）

※ 当期純利益は通期予想、自己資本および総資産は前連結会計年度末と当連結会計期間末の平均値を使用し算出しております。

◇事業環境に関する認識と確認（経済環境）

内外需の低迷を背景に企業収益に足踏みがみられ、設備投資が伸び悩み等、引き続き不透明な状況で推移。

海外経済においても総じて停滞基調のなか、中国をはじめとした新興国経済の成長鈍化や、英国のEU離脱問題等、様々なリスクが混在する状況で推移。

◇事業環境に関する認識と確認（物流業界の状況）

国内貨物は、天候不順による農産物への影響や個人消費の伸び悩み等から、荷動きの低迷が続き、

国際貨物は、円高や海外経済の減速により輸出貨物が減少する等、総じて低調に推移。

I. 経営状況



B. 財政状態

(単位：億円)

	2017/3期第2四半期累計	2016/3期	増減額
総資産	15,216	14,849	367
自己資本	5,088	5,222	△134

C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2017/3期第2四半期 累計実績	2016/3期第2四半期 累計実績	増減額 (前年比)
営業活動によるキャッシュ・フロー (A)	459	118	341
投資活動によるキャッシュ・フロー (B)	△335	△181	△153
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	124	△63	187
財務活動によるキャッシュ・フロー (C)	501	△177	678
現金及び現金同等物に係る換算差額 (D)	△79	△4	△74
現金及び現金同等物の増減額 (A+B+C+D)	546	△245	792
現金及び現金同等物の期首残高	1,460	1,489	△29
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	7	-	7
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,014	1,243	770
(ご参考)	2017/3期第2四半期 累計実績	2016/3期 実績	増減額 (前年度末比)
現金及び現金同等物の四半期末残高/期末残高	2,014	1,460	554

Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS, All rights reserved.

2017年3月期第2四半期決算説明会資料

2

◇財政状態

現金および預金の増加等により、対前年度末367億円、2.5%増加。

◇キャッシュ・フローの状況

現金及び現金同等物の2016年9月末残高が、対前年度末554億円増加。

I. 経営状況



D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



Copyright © 2016 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2017年3月期第2四半期決算説明会資料

3

◇売上高の推移

対前年439億円、4.6%減少。

前年の米国西海岸港湾混雑の影響による反動減、石油販売単価の下落、円高による為替の影響等により、警備輸送セグメントを除き、各セグメントで減収。

◇営業利益の推移

対前年13億円、5.8%増加。

利用運送費や外注費、燃油費の減少等により、

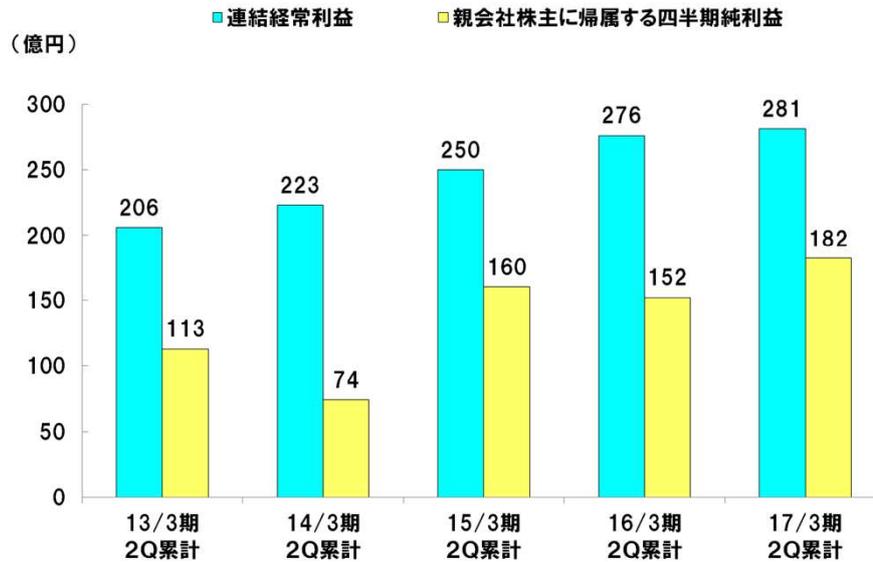
日本、欧州、東アジア、南アジア・オセアニア、重量品建設の各セグメントで増益。

日本セグメントでは、M&Aによって連結化した会社が、

南アジア・オセアニアにおいては、今期より連結化した子会社が収益に貢献。

I. 経営状況

E. 直近5年間の経常利益と親会社株主に帰属する四半期純利益の推移



◇経常利益の推移

対前年5億円、1.8%増加。

◇親会社株主に帰属する四半期純利益の推移

対前年30億円、20.3%増加。

特別利益は、固定資産売却益の増加、持分法適用会社の連結子会社化に伴う差益の計上等により、37億円増加。

特別損失は、前年に固定資産処分損を計上していたこと等により、17億円減少。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

1) 日本

(単位: 億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	5,662	5,731	△68	△1.2	5,617	100.8	45
	セグメント利益	164	143	21	15.1	161	102.4	3
2Q単四半期	売上高	2,866	2,891	△24	△0.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	84	78	6	8.3	3.0 (2.7)		
	概況	・航空は、アジア向けの液晶関連や電子部品の輸出が堅調に推移する等、取扱重量が増加 ・M&Aによりグループに加わっている連結会社が、セグメント業績に貢献 ・利用運送費や外注費、燃油費の減少等により、増益						

2) 米州

(単位: 億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	419	482	△63	△13.2	431	97.3	△11
	セグメント利益	24	27	△3	△11.0	22	110.5	2
2Q単四半期	売上高	209	245	△36	△14.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	17	13	3	22.2	8.1 (5.7)		
	概況	・現地通貨ベースにおいても、減収増益 ・米国において、前年の西海岸港湾混雑の反動により、航空・輸出入および海運・輸入フォワーディングが減少 ・自動車関連の米国-メキシコ間のトラック輸送が堅調に推移 ・米国における航空利用費の減少等もあり、増益						

※以下、セグメント毎の概況は、第2四半期単四半期の内容
「海外会社」の第2四半期は、4-6月期

◇日本・・・減収、増益

鉄道、トラックの取扱い等が総じて低調に推移。

相次ぐ台風の上陸・接近による影響で、特に北海道において農産物の荷動きが減少。

8月以降は日本通運単体において、

自動車運送や航空運送での売上高が前年を上回る等、荷動きが回復の兆し。

航空・輸出フォワーディングでは、アジア向けの液晶関連や電子部品の荷動きが

堅調に推移する等、取扱重量が全体で対前年8.3%のプラスとなったが、

燃油サーチャージ下落の影響があり、売上げは減少。

M&Aによりグループに加わっている連結会社が、

売上げ、利益面ともにセグメント業績に貢献。

利益面では、利用運送費や外注費、燃油費の減少等により、増益を確保。

◇米州・・・減収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、減収、増益。

前年の西海岸港湾混雑の反動で、米国の航空・輸出入フォワーディングと、

海運・輸入フォワーディングが減少。

自動車関連の米国-メキシコ間のトラック輸送が堅調に推移。

全体では、米国における航空利用費の減少等もあり、増益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

3) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月29日発表)対比				
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	391	410	△19	△4.7	385	101.6	6
	セグメント利益	8	6	1	22.3	8	106.9	0
2Q単四半期	売上高	198	207	△9	△4.5	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	2	1	61.1	2.4 (1.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、増収増益 ・医薬品関連や自動車関連等の航空・輸出フォワーディングが好調に推移 ・倉庫配送業務が堅調に推移 						

4) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比		業績予想(7月29日発表)対比				
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	476	574	△98	△17.1	492	96.8	△15
	セグメント利益	5	5	0	2.8	6	99.6	△0
2Q単四半期	売上高	235	291	△55	△19.1	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	3	2	66.7	2.4 (1.2)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいても、減収増益 ・前年の米国西海岸港湾混雑の反動の継続もあり、航空・輸出フォワーディングが減少 ・中国において、自動車関連の倉庫配送業務が好調に推移 ・航空利用費等の減少により、増益 						

◇欧州・・・減収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、増収、増益。

地域全体では、医薬品関連や自動車関連の航空・輸出フォワーディング、倉庫配送業務が売上げを伸長。

フランス、イタリアでは、医薬品関連等の航空・輸出入フォワーディングが伸長し、

英国では、自動車関連の輸出フォワーディングが、航空、海運ともに好調に推移したほか、

オランダでは、既存顧客の倉庫配送業務の取扱いが堅調に推移する中、

新規案件も獲得。

◇東アジア・・・減収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでも、減収、増益。

地域全体では、前年の米国西海岸港湾混雑の反動の継続もあり、

航空・輸出フォワーディングの売上げが減少。

中国において、自動車関連の倉庫配送業務が好調に推移し、

航空利用費等が減少した結果、増益。

Ⅰ. 経営状況



F. セグメント別状況

5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	341	367	△26	△7.2	353	96.7	△11
	セグメント利益	11	8	2	29.8	10	111.8	1
2Q単四半期	売上高	176	177	△1	△0.7	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	6	4	2	46.8	3.6 (2.4)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・現地通貨ベースにおいては、増収増益 ・前年の米国西海岸港湾混雑の反動により、航空・輸出フォワーディングが減少 ・フィリピンでの堅調な倉庫配送や、新規連結子会社が、増収に寄与 ・航空・船舶利用費、作業施設使用料等の圧縮により、増益 						

6) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	274	272	2	0.8	274	100.1	0
	セグメント利益	4	7	△2	△39.0	5	89.5	△0
2Q単四半期	売上高	136	135	1	0.8	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	0	2	△1	△78.8	0.3 (1.5)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域金融機関をターゲットに、拡販 ・人に関わる各種コストの増加により、減益 						

◇南アジア・オセアニア・・・減収、増益

為替の影響を除いた現地通貨ベースでは、増収、増益。

地域全体では、前年の米国西海岸の港湾混雑の反動により、航空・輸出フォワーディングの売上げが減少。

フィリピンでの倉庫配送業務が堅調に推移したことや、

第1四半期および第2四半期に連結化した子会社が、増収に寄与。

利益面においては、航空利用費、船舶利用費、作業施設使用料等、コスト全般の圧縮効果により増益。

◇警備輸送・・・増収、減益

地域金融機関をターゲットに拡販に努めたが、人に関わる各種コストが増加し、減益。

1. 経営状況



F. セグメント別状況

7) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	222	275	△52	△19.1	216	103.0	6
	セグメント利益	17	16	1	9.3	13	136.5	4
2Q単四半期	売上高	116	138	△22	△15.9	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	7	3	44.5	9.1 (5.3)		
	概況	・国内においては、重電関連や風力発電関連の輸送・据付工事が減少、シャットダウン・メンテナンス業務やプラント建設等が増加 ・海外においては、大型プラント工事がピークアウトにより、減収 ・利益率の高い工事の受注があり、増益						

8) 物流サポート

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(7月29日発表)対比			
		17/3期	16/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
2Q累計	売上高	1,920	2,072	△152	△7.3	1,921	100.0	△0
	セグメント利益	33	40	△6	△16.6	37	91.1	△3
2Q単四半期	売上高	979	1,035	△55	△5.4	2Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	20	23	△3	△13.7	2.1 (2.3)		
	概況	・日通商事における石油類販売単価の下落等により、減収減益						

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産他)

◇重量品建設・・・減収、増益

国内においては、重電関連工事や風力発電関連の輸送・据付業務が減少したが、シャットダウン・メンテナンス業務やプラント建設等が増加。
海外においては、前年の大型プラント工事がピークアウトしたことにより、大幅に減収。
利益面では、利益率の高い工事の受注があり増益。

◇物流サポート・・・減収、減益

日通商事における石油類の販売単価下落が大きく影響。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結（第2四半期累計）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 $\Delta 18.1$ 億円 （費用減） ※2Q単四半期 $\Delta 7.9$ 億円 （費用減）	（前年同期） 軽油 : 75.79円/ℓ (91.00円) ガソリン : 110.23円/ℓ (128.22円) 船舶重油 : 32.70円/ℓ (49.30円)
為替による影響	売上高 $\Delta 172.6$ 億円 営業利益 $\Delta 4.4$ 億円 ※2Q単四半期 売上高 $\Delta 115.7$ 億円 営業利益 $\Delta 3.2$ 億円	第2四半期累計期間平均為替レート（※） （前年同期） USD : 111.81円 (120.23円) EUR : 124.63円 (134.17円) HKD : 14.40円 (15.51円) RMB : 17.07円 (19.32円)

（※）第2四半期累計期間平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

Ⅲ. 2017年3月期の業績予想



A. 連結業績予想 (変更なし)

(単位：億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	9,092	9,347	18,440	9,558
営業利益	244	325	570	316
経常利益	281	348	630	347
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	182	177	360	204

◇7月29日発表の数値を据え置き。
各セグメントの業績見通しも変更せず。

III. 2017年3月期の業績予想



B. セグメント別状況（変更なし）

1) 日本

（単位：億円）

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	5,662	5,711	11,374	5,852
セグメント利益	164	240	405	222
概況	・ワンストップ体制による営業力の強化と、オペレーションの更なる効率化に注力			

2) 米州

（単位：億円）

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	419	436	856	464
セグメント利益	24	19	44	23
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・米国、メキシコにおいて、設備関連の海運・輸入フォワーディングが減少する見込み ・自動車関連のトラック輸送が好調を維持する見込み 			

◇日本

国内外の需要が低迷する経済状況のもと、荷動きは力強さを欠き、緩慢な動きとなる予想。

陸海空のワンストップ体制により営業力を強化し、オペレーション面においても更なる効率化に注力。

第2四半期にあった台風の影響については、下期には限定的なものとなる見込み。

◇米州

米国、メキシコにおいて、設備関連の海運・輸入フォワーディングが減少し、自動車関連のトラック輸送の取扱いが好調を維持する見込み。

III. 2017年3月期の業績予想



B. セグメント別状況 (変更なし)

3) 欧州

(単位: 億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	391	400	792	435
セグメント利益	8	10	19	8
概況(3Q)	・航空・輸出入フォワーディングが堅調に推移する見込み			

4) 東アジア

(単位: 億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	476	524	1,001	576
セグメント利益	5	10	16	10
概況(3Q)	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車関連の倉庫配送が好調を維持する見込み ・航空・輸出フォワーディングは低調に推移する見込み ・利用運送費等の削減に引き続き注力 			

◇欧州

航空・輸出入フォワーディングが堅調に推移する見込み。

◇東アジア

自動車関連の倉庫配送業務の取扱いが好調を維持し、
航空・輸出フォワーディングは低調に推移する見込み。
引き続き、利用運送費等の削減に注力。

III. 2017年3月期の業績予想



B. セグメント別状況 (変更なし)

5) 南アジア・オセアニア

(単位：億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	341	381	723	334
セグメント利益	11	10	22	7
概況(3Q)	・航空・海運フォワーディングの獲得に向け営業強化 ・引き続き、航空・船舶利用費等の削減に注力			

6) 警備輸送

(単位：億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	274	268	543	265
セグメント利益	4	7	12	8
概況	・金融機関からのアウトソーシング獲得に注力 ・人に関わる各種コスト増加の影響は避けられない見込み			

◇南アジア・オセアニア

営業を更に強化し、ロジスティクス業務で囲い込んだお客様の航空・海運フォワーディングの獲得に取り組む。

引き続き、航空利用費、船舶利用費等の削減により、利益の確保に注力。新規連結子会社の収益も寄与する見込み。

◇警備輸送

キャッシュ・ロジスティクスプラットフォームの構築により、

金融機関からのアウトソーシング獲得に注力。

人に関わる各種コストの増加による影響が避けられない見込み。

Ⅲ. 2017年3月期の業績予想



B. セグメント別状況 (変更なし)

7) 重量品建設

(単位: 億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	222	216	439	238
セグメント利益	17	9	27	20
概況	・国内のシャットダウン・メンテナンス業務および重電関係の輸送据付工事獲得に注力 ・海外の大型プラント工事の終結による影響が続く見込み			

8) 物流サポート

(単位: 億円)

	2017/3期			2016/3期 下期実績
	上期	下期	通期予想	
売上高	1,920	2,056	3,977	2,036
セグメント利益	33	49	83	41
概況	・石油類の販売単価下落による影響が落ち着く見込み			

(日通商事、日通総合研究所、日通キャピタル、日通不動産他)

◇重量品建設

国内のシャットダウン・メンテナンス業務、
および重電関係の輸送据付工事の獲得に注力。
海外の大型プラント工事の終結による影響が続く見込み。

◇物流サポート

石油類の販売単価下落による影響が落ち着く見込み。

Ⅲ. 2017年3月期の業績予想



C. 外部要因の前提

変動要素	連結業績への影響 (下期)	前提条件
燃油費単価変動 による影響	燃油費 $\Delta 5.9$ 億円 (費用減)	(前期年間平均) 軽油 : 74.81円/ℓ (85.26円) ガソリン : 110.88円/ℓ (120.54円) 船舶重油 : 32.42円/ℓ (42.52円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 $\Delta 200.4$ 億円 営業利益 $\Delta 7.2$ 億円	(前期年間平均(※)) USD : 110.00円 (121.05円) EUR : 123.40円 (134.32円) HKD : 14.20円 (15.62円) RMB : 16.80円 (19.22円)

(※) 年間為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを、現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

IV. 経営計画の進捗状況

日通グループ経営計画 2018 - 新・世界日通。 -

国内(日本)事業の収益性を更に向上させ、真のグローバルロジスティクス企業となるべく、注力する事業領域と成長地域へのBtoBに特化した集中投資を着実に実行する。



(エリア戦略・日本)

◇大都市圏におけるグローバル企業との取引拡大を図るため、本年5月に関東ブロックにロジスティクス事業支店を設立。ヘルスケア、電機・精密機器の大手グローバル顧客をターゲットに、アカウント営業を更に強化。

◇自動車運送事業におけるネットワークの強化のため、本年4月に出資を行った「名鉄運輸」を戦略的パートナーとし、特別積合せ輸送における配送、幹線便の共同運行、ターミナルや拠点の共同利用等を、各地域で更に拡大。鉄道コンテナや引越での協業も、引き続き実施。

(エリア戦略・海外)

◇南アジア・オセアニア地域における成長を図るため、本年6月にタイで持分法適用会社を100%連結子会社化。東南アジア・メコン経済圏のめざましい発展にスピード感を持って対応し、グローバルロジスティクス事業の更なる拡大を図る。

◇インド国内物流の需要の高まりに対応し物流機能を強化するため、本年7月に2つの子会社の事業を再編。「インド日通ロジスティクス」が、インド国内物流の専門会社として営業を開始し、航空・海運フォワーディングを中心に展開する「インド日本通運」とともに、インドでの輸送ネットワークの拡充と、輸送サービスの充実を図る。

◇東南アジア諸国を中心としたインフラ整備や工場建設の需要増加に応えるため、重量品輸送・各種プラント事業を総括する「NEX グローバルエンジニアリング」をシンガポールに設立。発電・プラント設備等の受注拡大を図り、グループの海外ネットワークを活かしてお客様の海外進出にワンストップで対応し、グローバルレベルでの成長を実現する。



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。